



## 山と町をつなげる仕事をしたい

雑屋林材株式会社 中嶋 雄一郎

### Q1 今どんな仕事をしていますか？どこにやりがいを感じていますか？

製材した木材の仕上げ加工と建築現場への配達がメインの仕事です。加えて、所有山林の管理を始めました。とはいってもまだ一年目で、山林の全容も掴めていない状態です。今は会社の本業である材木屋の仕事を覚えることに力を入れています。アカデミーでは山側の勉強がメインだったので、利用する立場で木に触れるのは日々発見があり、おもしろいです。

### Q2 現在の仕事で役に立った学びはなんですか？

山林の管理を初めてすぐに、冠雪害跡地の再造林を任せられました。アカデミーで学んだことをベースに、森林組合や農林事務所と相談して方針を決めました。その過程で何度も、授業で学んだことを思い出すためノートを見返しました。

### Q3 今後は何にチャレンジしていきたいですか？

まだまだ一年目なので仕事の内容を覚えることに必死ですが、明確な目標を持って仕事に取り組んでいます。それは、林業と町をつなげるということです。そのためには製材業と林業の両方を理解することが役に立つと考えています。



## 最後に一言

学ぶ積極性があれば、それに応えてくれる先生と支えてくれる仲間がアカデミーにはいます。

## 地元好きが好き！

明宝ツーリズムネットワークセンター 柏 春菜

### Q1 どんなお仕事をされているんですか？

郡上市の明宝地域で着地型旅行商品の企画と運営をやっています。わかりやすく言えば、地元発案の企画で都会の人を明宝に呼んで来て、地元のよいところを体験してもらい、明宝のファンになってもらうお手伝いをしているということです。たとえば明宝の小川地区でとれるおいしいお米を「日出雲のめぐみ」として地元がブランド化していますが、このお米のよさと、それを育む小川の自然を知ってもらおうと、田植えや稲刈りなどのお米づくり体験ツアーを企画・運営したりしています。

### Q2 お仕事のどんなところにやり甲斐を感じていますか？

明宝の人たちは本当に自分たちの暮らす郷土を愛していらっしゃいます。残念ながら、日本のすべての中山間地がそうではありません。そんな中で、地域が元気になるお手伝いをする中で、自分も元気になることができます。私はどうやら地域が大好きな人たちが大好きみたいです。大学を卒業後、平凡な就職をしなくて森林文化アカデミーに進学しましたが、その選択は正解だったといま感じています。

### Q3 森林文化アカデミーでの2年間に得たものは何ですか？

森林文化アカデミーでは、普通の大学や職場では出会うことがなかったであろう、各分野のプロフェッショナルの先生方に会うことができました。そしてそれぞれの世界観を覗かせていただくことができ、自分の世界観が大きく広がったのを感じました。特に森林や林業について学んだことは、明宝に多い林業関係者や山林所有者の方たちとお話するとき役に立っています。そして在学中に出会った多くの人たちとのつながりも、他では得がたい大切な宝物です。



## 最後に一言

入学してからは同級生や卒業生との関わりを大切にしてください。きっと将来色々な場面であなたを助けてくれます！

# 全国で活躍中の先輩にいろいろ聞いてみました。

## 森林資源の中で豊かに暮らす。

特定非営利活動法人 日本の森バイオマスネットワーク 富張 信司  
株式会社 サスティナライフ森の家  
特定非営利活動法人 しんりん  
株式会社 ウェスタ

### Q1 今どんな仕事をしていますか？どこにやりがいを感じていますか？

現在は、森林資源を活用した産業と雇用の創造をテーマに仕事をしています。山から出た木材がカスケード利用され、余すところなく使い切れるよう林業から、素材生産、建築、家具、バイオマスエネルギー事業などの業務に携わっています。また、グループ団体に自然学校や森の幼稚園があり、森林を活用した環境教育とも連携し、森林や森林資源に興味を持っていただくイベントを行っています。森林の有効活用を実践している人たちと共に仕事をし、胸を張って人に勧めることができる仕事だとやりがいを感じています。

### Q2 アカデミーに入学しようと思ったきっかけは？

専門学校卒業後、住宅メーカー家を建てる工務店で現場管理をしていました。その際、新建材（木の柄のシートを貼ったプラスチックなど）が多く使われていることや、日本全国同じ様な家が建つ事、30年程度で建て替えられる事などに疑問を感じていました。なにより自分が住みたいと思える家ではありません。そんな中、木造建築を基本に建築文化や素材生産等に特化した本校を知り入学しました。



### Q3 今後は何にチャレンジしていきたいですか？

仕事では、自ら提案・発信を行えるように、森林に関わる色々な仕事に首を突っ込みながら、体験し成長していきたいです。また、プライベートでは「森林資源と共にあるライフスタイル」を自ら考え、木地師をしている妻と実践していきたいです。森林と地域と自分たちが繋がり、豊かな暮らしを提案していけたらと思っています。

## 最後に一言

林業、建築、木工に携わりたい人、少人数ですが夢を持った人たちが集まります。今後の人生を豊かにする人脈もできます。森林に関わる知識がどんどん学べ、自分の目標に向かって成長できる本当に楽しい学校ですよ。

## 農的暮らしを実践しながら伝える

NPO法人 都留環境フォーラム 新津 里子

### Q1 今どんな仕事をしていますか？

食べ物や道具やエネルギーを自分たちや地域でつくる、そんな暮らし方や価値観もいいんじゃない？一緒にやってみませんか？というメッセージを伝えるため、農的暮らしを実践しながら体験イベントや、活動をまとめた本を出版しています。在来種のタネの保存販売や、里山再生にも力を入れています。そして、2014年からは馬を飼いはじめました。化石燃料に頼らず馬で田畑を耕す、馬耕を伝えるために、日々奮闘中です！

### Q2 アカデミーに入学しようと思ったきっかけは？

私は図書館司書として5年間働いていました。ごく一般的な価値観を持っていた私が全く違う世界ともいえる森林文化アカデミーに入学したきっかけは、たまたま友達に誘われて行った屋久島のエコツアーだったんです。屋久島の森全体が「生きてる！」とピリピリ感じ、今までにないほどに自然とグッと近く感じる事ができました。感激のあまり、「私もガイドさんのように、感動を人に伝えられるようになりたい！」と、思い切って人生の舵を切ったのです。

### Q3 アカデミーで得た一番の宝物は？

アカデミーでは、子ども向けの自然体験キャンプや、里山に暮らす動物の観察会の企画運営を通して、インタープリテーションの技術や、人と自然をいかにしてつなぐかを学びました。人前に立つのが苦手だった私は挫折の連続でしたが、何とかして「やる！」という度胸と、飛び込む勇氣、そしてチャンスをつかんで自分の流れをつくることのできるようになったのは、今思うと大きな財産になっていますね。



## 最後に一言

実践者であり続けたい。依存から自立へ、消費者から生産者へ！

## インフォメーション

岐阜県立 森林文化アカデミー

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地

tel : 0575-35-2525 fax : 0575-35-2529

mail : info@forest.ac.jp

ホームページ : <http://www.forest.ac.jp>

アカデミーブログ : <http://gifuforest.blogspot.jp/>

facebookページ : <http://www.facebook.com/forest.academy>

※最新情報はホームページをご覧ください。